

## 中華人民共和国憲法の日本語訳 ⑤

日中岡山「9条の会」の活動の一環として中華人民共和国憲法の日本語訳に取り組んでいます。その第5回目を掲載します。

中華人民共和国は全国各族人民共同締造の統一的多民族国家。平等、团结、互助の社会主义民族关系已经确立，并将继续加强。在维护民族团结的斗争中，要反对大民族主义，主要是大汉族主义，也要反对地方民族主义。国家尽一切努力，促进全国各民族的共同繁荣。

中国革命和建设の成就是同世界人民的支持分不开的。中国的前途是同世界的前途紧密地联系在一起。中国坚持独立自主的对外政策，坚持互相尊重主权和领土完整、互不侵犯、互不干涉内政、平等互利、和平共处的五项原则，发展同各国的外交关系和经济、文化的交流；坚持反对帝国主义、霸权主义、殖民主义，加强同世界各国人民的团结，支持被压迫民族和发展中国家争取和维护民族独立、发展民族经济的正义斗争，为维护世界和平和促进人类进步事业而努力。

本宪法以法律的形式确认了中国各族人民奋斗的成果，规定了国家的根本制度和根本任务，是国家的根本法，具有最高的法律效力。全国各族人民、一切国家机关和武装力量、各政党和各社会团体、各企业事业组织，都必须以宪法为根本的活动准则，并且负有维护宪法尊严、保证宪法实施的职责。

中華人民共和国は全国の各民族人民が、共同で創建した統一多民族国家である。平等、团结、互助の社会主义民族関係はすでに確立し、さらに強化しつづける。民族团结を守る闘争の中で、大民族主義に反対すべきで、主として大漢民族主義に対してである。なお、地方の民族主義にも反対しなければならない。国家ができるかぎり、あらゆる努力をし、全国各民族の共同繁栄を促進する。

中国革命と建設の成就是世界人民の支持と不可分である。中国の将来は世界の将来と緊密な関係にあるのである。中国は独立自主の对外政策を堅持し、互いに主権と領土保全を尊重し、互いに侵さず、互いに内政干渉をせず、互いに利益を平等に得る、この平和共存の五原則を堅持する。各国の外交関係と経済・文化の交流を發展させ、反帝国主義、反霸權主義、反植民主義を堅持する。世界各国人民との团结を強化し、被压迫民族と、發展途上国が民族独立を勝ち取って守り、民族經濟發展の正義の闘争を支持し、世界平和を擁護し、人類進歩の事業を促進するために努力する。

本憲法は法律の形式によって、中国各民族人民闘争の成果を確認し、国家の基本制度と基本任務を定め、国家の基本法とし、最高の法律効力を有するものとする。全国各民族人民と、全ての国家機関武装能力と各政党、各社会团体と各企業と事業組織は全てこの憲法を基本活動原則とみなし、かつ憲法の尊嚴を遵守し、憲法の実施を保証する責務を負うものとする。

今回で中華人民共和国憲法序文の日本語訳は終わりました。なかなか思うようにみなさんとの時間の調整がとれず、ずいぶんと翻訳に時間がかかってしまいました。しかし、中国の憲法を翻訳してみて、憲法というものがいかにその国の歴史と深くかかわっているかということ、あらためて感じさせられました。中国近代史の困難な歴史、侵略を受け、内戦を経験し、統一までの道筋が憲法に表れています。その点で日本国憲法もまた、近代史の結果だといえるでしょう。二度と再び戦争をすることのないように、という思いが前文にあふれています。この奇跡の憲法を私たちは失ってはいけないと思いを新たにしました。次に何に取り組むのか、また、みなさんと相談して発表したいと思っています。則武さん、荒武さん今後ともよろしく願います。

日中岡山「9条の会」 真田紀子

## 迎春

岡山合同法律事務所  
岡山県労働組合会議  
日中 京都府連合会  
高木印刷所 馬場幸男  
日本中国友好協会 会長 長尾光之  
野津保夫  
日中 兵庫県連合会  
日中 宮城県連合会  
日中 米子支部



年賀状をいただきました  
ありがとうございます  
(敬称略)

## アンネ・フランクの生活から 戦争と平和を考える

### 福山市ホロコースト記念館を訪ねる

11月29日、「いしずえ会」が企画した「ホロコースト記念館見学の旅」に同行させていただきました。日中友好協会から竹内理事、稲葉理事が参加しました。1971年4月にアンネ・フランクの父、オットー氏が訪れたのをきっかけに記念館が作られたそうです。ユダヤ人撲滅政策で500万人(子どもは150万人)の何の罪もない人が犠牲になってしまったのです。

アンネが隠れていたという、4畳半くらいの狭い部屋を実際に体験すると、当時の状況がおも

らばかられて胸がしめつけられるようです。アンネの銅像の見える窓には、ゲッターで書かれた「もううちうちようはいない」の詩とちようちようのステンドグラスが取り付けられています。

ポーランドのアウシュビッツ記念館を訪れたことがあって、その凄さを時折思い出しながら、記念館の職員(ポランティアさん)が話してくださる説明を聞きながら不再戦の誓いをあらたにしました。

稲葉泰子



題字 原田 親

No. 562

2009/1/15

日中友好協会  
岡山支部  
〒703-8256  
岡山市東3-8-30-514  
TEL.086)272-3010  
郵便振替口座  
01250-0-3835  
http://rizhong.web.  
infoseek.co.jp/

# 日中友好新聞

発行所  
日本中国友好協会  
〒103-0945 東京都千代田区  
西神田2-1-1 東方学生会館408

日中友好協会岡山支部ホームページ  
http://rizhong.web.infoseek.co.jp  
メールアドレス  
rizhong86@hotmail.co.jp



# 日本語学習の教室で②

曾田和子

曾田和子さんは岡山で高校教師をしていらつしやいました。定年後中国にわたり、日本語を教えていらつしやいます。昨年の夏に帰郷された時日中岡山上に記事を書いていただきましたとお願いたしましたところ、快くお受けいただきました。今回はその2回目です。

昨夏、オリンピック前の北京に半月ほど滞在した。北京の街はきれいで、空は青かった。江蘇省の省都・南京は全国の省都でワースト1、2と言われる汚なさだそう。この汚名返上とばかりに、今年の9月初めから、南京市は各区ごと、鎮ごとに徹底したとりくみを始めた。住民アンケートも実施され、外国人の私も回答した。

さまざま政策がどれくらい市民に知られ、その評価はいかに、というようなもの。私の住所区は雨花台区、鎮は鉄心橋という。鎮は最小の行政単位である。

講文明、講衛生、講科学、樹新風のスローガンが赤い横断幕に記されている。私が毎日見かける、手鼻をかんて勢いよく鼻を飛ばし、痰を吐いたりする習慣を正そうということらしい。これは「樹新風」だ。みんな、ごみのないきれいな環境をつくらうは「講衛生」か。文明乗車」と記した垂れ幕の前で、下車する客も待たずに、われ先に乗り込もうとする人。「礼儀は正しいが、行儀は悪い中国人」とよくいわれるが、この南京で、ささやかな私の実践は？



大学が私に与えてくれている住まいは、集合住宅の一室であるが、中国人が隣人たちである。この住まいのある鳳翔山庄三号「Xiyuan」(xiyuan)には毎朝、ごみ収集車が来る。分別いづさいなし。缶もビンも、こうもり傘も残飯も一緒に捨てられており、大きなゴミ箱10杯近くが収集される。私は岡山方式で、分別して出す。毎日、収集されるのに、ごみは其処彼処に散らかっている。20棟103号は私の部屋、その周辺のごみ拾いを週一回、心がける。

つづく

## 平和を訪ねる南京の旅

### 日本占領部隊の蛮行の事実を 実際に学んで不再戦を誓う

1月3日(土)から6日(火)まで、岡山県高教組女性部有志が主催の「三江大学の曾田先生を訪ねる南京交流の旅」に参加させていただきました。主には、南京大虐殺事件(1937年12月13日から6週間にかけて、日本の占領部隊が南京市で捕虜・住民を殺害し、略奪、放火、強姦を行った事件)を、三江大学で日本語科に籍を置いている学

生さんと一緒に学ぶ旅でした。南京市には、昨年に、事件から70周年目に新しくリニューアルをした、侵華日軍南京大虐殺遭難同胞記念館(南京大虐殺遭難同胞記念館)、それに、殺受難同胞記念館、それに、同じ12月13日に開館した、市民の呉さん個人(企業家)の収蔵品を陳列した「南京民間抗戦史料陳列館」があります。その両方の記念館を、三江大



学の学生さんと一緒に見学しました。どちらも、入場料は無料です。南京大虐殺受難同胞記念館では、被害者の伍さん(85歳)のお話を聞き、館長の朱成山氏との懇談、南京民間抗戦史料陳列館では、呉さんとの懇談がありました。

万人坑といわれる大量の犠牲者の遺体が埋められていた場所に建てられた記念館は、面積28,000平方メートル以上、建築面積3,000平方メートル以上、圧倒される大きさで、新館地下1階に入ると、無数の蠟燭の光が灯り、天井には、犠牲者300,000という数字が光っていました。

犠牲になられた方の写真が一人ひとりスクリーンに映し出されて、実際にその場所に来たということを体験しました。女性の強姦された姿、百人斬りの姿など目を覆いたくなるような数々の写真、証拠品に触れる中で、日本軍の戦時国際法に違反する残虐行為を目の当たりに見えた思いでした。

この惨劇を最初に世界に知らせたのは、アメリカの従軍記

者で、その方々の写真、手記も展示してありました。日本軍は軍事裁判を恐れて、証拠隠滅をしたという事実も明らかになっています。被害者の証言、全ての証拠、記録を後生に伝えて、同じ過ちは二度と繰り返さないという思いを改めて強くしました。

一緒に歩いた三江大学の学生に「どう思うか」と聞いたところ、日本と中国の間の2000年近い歴史の中の不幸な出来事。このことを忘れず、友好を深めたい」という答えが返ってきました。この気持ちに込められた、日本政府は過ちを是正しきりと認めて、賠償するべきです。

朱館長との懇談では終始、昨年12月に朝日新聞が報じた記事についてでした。

このことについては、次回に詳しくお知らせします。

南京民間抗戦史料陳列館は、民間の呉さんの工場の中の一角にありました。収蔵品の展示と共に、関係する本、書籍の部屋も設けていました。将来は、図書館にして知識を伝達する場所にしたという、呉さんの抱負を聞かせていただきました。

呉さんは、200人の生存者を訪ねて歩いた。民間の声で、戦争を伝えていくことは大事だ、といわれました。

稲葉泰子

つづく



中山陵



抗日戦争博物館での展示

次回の新聞送付作業は1月21日(水)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

剛和 木葉林 赤稲小 竹内 竹坪